

古語辞典では、古典作品に頻出の単語が「最重要語句」として、赤色の太字で掲載されています。以下の「**ありがたし**」のように、語義の解説がある重要語句は、複数の意味や用例を確認しましょう。今回は重要語句の内、歴史的仮名遣いに注意して読むものについて、学習を進めましょう。

❁ 語釈の出典 三省堂『全訳読解古語辞典』

【**あり・がた・し**】 【有り難し】 「形ク」
〔から・く（かり）〕
〔ま（める）・（かり）〕
〔き（める）・（けれ）・（かれ）〕

語義解説 「有り」＋「難し」で、有ることがむずかしい、すなわち、めったにない、まれである、が原義。さらに、有ることがむずかしいから、実現が困難であるの意や、あるいは、めったにないほど尊くすぐれているの意が生じた。これが近世以降、感謝にたえないの意に変化して、現代語に通じるものとなる。

- ① **めったにない**。まれである。珍しい。
② 実現が困難である。できそうもない。むずかしい。
③ （めったにないほど）**尊くすぐれている**。感心である。

POINT



歴史的仮名遣いの
読み方のポイント

代表的な法則		歴史的仮名遣い		現代の仮名遣い	
語中・語尾の「はひふへほ」は「ワイウエオ」と読む		いふ	（言ふ）	いう	
ワ行の「ゐ・ゑ・を」は「イ・エ・オ」と読む		かほ	（顔）	かお	
「くわ・ぐわ」は「カ・ガ」と読む		ゐん	（院）	いん	
ア段・イ段・エ段に「ウ」音が付くと長音や拗音に変化		ゑみ	（笑み）	えみ	
		くわかく	（過客）	かかく	
		くあげつ	（花月）	かげつ	
		やう	（様）	よう	
		きう	（九）	きゅう	
		てふてふ	（蝶々）	ちようちよう	

一、歴史的仮名遣いで記された語句の読み方を、現代の仮名遣い（ひらがな）で答えなさい。

歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い	歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い
ゆいへ		よはひ	
うへ		【難】せいせうなごん	
けふ		【難】じゃうくわう	

二、次の百人一首の和歌にある下線部（歴史的仮名遣い）の読み方を答えなさい。

百人一首	現代の仮名遣い
あはれとも 言ふべきひとは 思ほへて	
身のいたづらに なりぬべきかな（謙徳公）	
春過ぎて 夏来にけらし 白妙の	
衣ほすてふ 天のかぐ山（持統天皇）	
心にも あらでうき世に ながらへば	
こひしかるべき よはの月かな（三条院）	

三、次の歴史的かなづかいの古語を現代的かなづかに直し、意味を調べましょう。

歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い	意味
やうやう		
たがふ		
まうず		

古語辞典では、古典作品に頻出の単語が「最重要語句」として、赤色の太字で掲載されています。以下の「ありがたし」のように、語義の解説がある重要語句は、複数の意味や用例を確認しましょう。今回は重要語句の内、歴史的仮名遣いに注意して読むものについて、学習を進めましょう。

❁ 語釈の出典 三省堂『全訳読解古語辞典』

【あり・がた・し】 【有り難し】 「形ク」
〔から・く・（かり）・し・〕
〔ま・か・る・（けれ）・かれ・〕

語義要説 「有り」＋「難し」で、有ることがむずかしい、すなわち、めったにない、まれである、が原義。さらに、有ることがむずかしいから、実現が困難であるの意や、あるいは、めったにないほど尊くすぐれているの意が生じた。これが近世以降、感謝にたえないの意に変化して、現代語に通じるものとなる。

- ① めったにない。まれである。珍しい。
- ② 実現が困難である。できそうもない。むずかしい。
- ③ （めったにないほど）尊くすぐれている。感心である。

POINT



歴史的仮名遣いの読み方のポイント

代表的な法則		歴史的仮名遣い		現代の仮名遣い	
語中・語尾の「はひふへほ」は「ワイウエオ」と読む		いふ	（言ふ）	いう	
ワ行の「ゐ・ゑ・を」は「イ・エ・オ」と読む		かほ	（顔）	かお	
「くわ・ぐわ」は「カ・ガ」と読む		ゐん	（院）	いん	
ア段・イ段・エ段に「ウ」音が付くと長音や拗音に変化		ゑみ	（笑み）	えみ	
		くわかく	（過客）	かかく	
		くあげつ	（花月）	かげつ	
		やう	（様）	よう	
		きう	（九）	きゅう	
		てふてふ	（蝶々）	ちようちよう	

一、歴史的仮名遣いで記された語句の読み方を、現代の仮名遣い（ひらがな）で答えなさい。

歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い	歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い
ゆゑへ	ゆうべ	よはひ	よわい（齢）
うへ	うえ（上）	【難】せいせうなごん	せいしようなごん（清少納言）
けふ	きょう（今日）	【難】じゃうくわう	じようこう（上皇）

二、次の百人一首の和歌にある下線部（歴史的仮名遣い）の読み方を答えなさい。

百人一首	現代の仮名遣い
あはれとも 言ふべきひとは 思ほへて	あわれとも・いうべき・おもおえて
身のいたづらになりぬべきかな（謙徳公）	
春過ぎて 夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天のかぐ山（持統天皇）	ほすちよう
心にも あらでうき世に ながらへば	
こひしかるべき よはの月かな（三条院）	こいしかるべき・よわのつきかな

三、次の歴史的かなづかいの古語を現代的かなづかに直し、意味を調べましょう。

歴史的仮名遣い	現代の仮名遣い	意味
やうやう	ようよう（漸う）	だんだん、しだいに
たがふ	たがう（違う）	背く、食い違う、間違える
まうず	もうず（参ず）	お参りをする、参上する、うかがう